

のように多様な学生をかかえておりますので、学部的一般教育にはかなりの配慮が払われてきました。特徴的な点は、一般教育を分離せず、専門教育の中に組み込んだ形での教育を行なっていること、特に、高度な専門知識とともに総合的判断力、管理能力をそなえた指導的技術者の育成のため、管理科学、計画経営学関連の教科の充実をはかっていることです。この管理科学、計画経営学関連の教育は、主として第7学系の計画・経営科学講座が担当しており、OR関連の科目をも含む多数の科目が開講されております。

また、修士課程においても、学生は専攻科目ばかりでなく計画・経営科学、社会文化学、体育科学などの科目（共通科目と呼ぶ）を選択履修しなければなりません。共通科目のうち、計画・経営科学関連科目については履修すべき単位数が定められています。現在、システム解析論Ⅰ、経済システム分析Ⅰ、システム・マネジメント特論、計量経済学、経済計画特論、産業計画特論、経済

システム分析Ⅱ、現代工業経営論、管理科学特論、生産管理論、環境経済学特論などの科目が開講されています。

修士は6専攻ですが、どの専攻の学生も、計画・経営科学コースを選ぶことにより同講座の教官の指導のもとで社会・経済システムに関する研究を行なうことができます。博士課程システム情報工学専攻に進学すれば、この分野の研究をさらに進めることができます。

以上、本学の概要と計画・経営科学関連の教育とについてご紹介いたしました。ところで、近年、経済、企業経営の分野にもコンピュータによる高度の情報処理技術が導入されるようになりました。そこで、今後は、計画・経営科学教育にこの点を加味し本コースのより一層の充実をはかりたいと考えております。

なお、本学は地域との交流を1つの基本理念としておりますが、このことについては、本誌 Vol. 32, No. 9の本学本多波雄学長の記事（トップの視点“地域と大学”）をご参照いただければと思います。（阿部 健一）



研究部会報告

●対話型OR●

●第9回

日時：昭和63年1月26日（火） 15:00～17:00 出席者：15名 場所：中国電力 テーマと講師：ORストーリーは線形モデルから 権藤元（近畿大学）

線形モデルは基本的で適用分野も広い。具体的には線形モデルとして、LPと線形回帰モデルを対象にして、モデルづくりの過程を話題にとりあげることとした。

出光石油化学のLP活用事例 久保田忠義（出光石油化学）

操業管理にLPが用いられるようになった背景を、最近10年間の変化について年代を追って紹介された。非線形モデルを利用した時期もあったが、LPに落ち着いたことが印象的であった。

●第10回

日時：2月22日（月） 15:00～17:00 出席者：16名 場所：マツダ テーマと講師：多目的意志決定モデルにい

たるまで野村淳二（松下電工）

在庫管理における階層多目的意志決定支援システムの10年間にわたる開発経過を、計画の立て方・人間系を中心としたアプローチ・最適化手法・担当者と上司のギャップ・マンマシンのインターフェイスなどの面から、話された。特に方針上の意志決定と執行上の意志決定を巧みに同一の画面でこなすにいたった点、また、非線形のモデルから実用上線形のモデルで実用システムを構築した点など興味をひいた。

●第11回

日時：3月28日（月） 15:00～17:00 出席者：10名 場所：中国電力 テーマと講師：LPを用いた飼料配合システムの開発経過 三谷克之輔（広島大学）

LPによる飼料配合システムの福山地区における利用状況を紹介された。電卓を用いて飼料配合の計算を繰り返して行っていた時代から、LPモデルに移り変わった姿の説明があり、シャドープライスを見ながら試行錯誤するシステムを開発した経緯がよくわかった。また、BASIC ファイルのエディタシステムを作成し畜産家のデータベースを共用化している。